

## 令和7年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

### 1 調査の実施状況

令和7年4月14日(月)、17日(木)

### 2 実施教科

国語、数学、理科、学習及び生活に関する質問調査

### 3 対象

第3学年

### 4 教科に関する調査結果

平均正答率が2教科とも全国平均を、やや上回っています。また、各教科の領域別に見ても、ほとんどの領域で全国平均をやや上回っています。

教科	全国の平均正答率	本校の全国平均率との差	
国語	54.3%	全国平均をやや上回る	+5%以上 : 大きく上回る +3~5% : やや上回る ±3%未満 : ほぼ同じ -3~5% : やや下回る -5%以上 : 大きく下回る
数学	48.3%	全国平均をやや上回る	

※ 理科は、IRTという新方式で行われ、問題等が非公開のため、調査結果の報告はありません。質問項目の分析のみの報告です。

### 5 考察と今後の対策 (○：成果が見られた項目 ◆：課題が見られた項目)

#### (1) 国語科について

- ほとんどの領域の平均正答率が全国平均をやや上回っており、授業での話し合い活動や小テストなどの成果が表れていると考えられます。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」について、文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題では、全国平均を大きく上回っており、普段から漢字を適切に使って文章を書いていると考えられます。
- ◆ 「話すこと・聞くこと」に関する設問では、平均正答率が全国平均とほぼ同じですが、わずかに下回っているものもあります。資料を用いて自分の考えが相手によく伝わるよう、理解したことを具体的に分かりやすく表現することが大切だと考えられます。
- ◆ 「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる」問題の正答率は全国平均をやや下回っています。しかし、質問調査の「国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか」の問いに対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合が全国平均を大きく上回り、そのような意識で文章を読もうとしていることが分かります。今後も、二つの文章の読み比べや文学的文章における表現の効果を検討することなどを、日頃から学習に取り入れていくことが大切だと考えられます。

#### (2) 数学科について

- 関数の領域の正答率が、すべての問題で県平均・全国平均を上回っており、授業における振り返りの成果が表れていると考えられます。

- 評価の観点「思考・判断・表現」の問題については、全てで正答率が県平均・全国平均を上回っており、授業において数学的に考える場面や自分の考えを説明する場面を設定した成果が表れていると考えられます。
- 無回答率については、すべての問題で県平均・全国平均を下回っており、間違えることを恐れずに問題に取り組むことができる生徒が多いと考えられます。
- ◆ 評価の観点「知識・技能」の問題の正答率は、いくつかで県平均・全国平均を下回っています。授業の最初に復習や反復練習を行い、基礎的な内容を定着させることが重要です。

### (3) 理科について

- 「理科の授業で学習した知識と考え方を普段の生活の中で活用できていますか」という質問に対して、肯定的に回答した生徒の割合が高かったことから、学習内容を日常生活と結び付けながら理解を深めているということが考えられます。
- 「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか」という質問に対して肯定的に回答した生徒の割合が高かったことから、授業内で観察・実験・問い掛けを通じて、生徒が自分なりの問いを持つ場面が設定されているということが考えられます。
- 「理科の授業では、自分の予想(仮説)をもとに観察や実験の計画を立てていますか」という質問に対して肯定的な回答をした生徒が県平均・全国平均を大きく上回っていることから、生徒は「ただ実験する」のではなく、「自分の考えをもとに実験する」という科学的に探究しようとする態度が育っていると考えられます。

### (4) 学習や生活の状況に関する調査について

- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に対して、ほとんどの生徒が肯定的に答えています。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に対しても、ほとんどの生徒が肯定的に答えており、将来に対して目的意識を持っていると考えられます。
- 本校では「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問に対して、肯定的に答えている生徒の割合が高く、学校生活における悩みや不安を生徒と教職員が共有しやすい環境になっているのではと考えられます。
- 「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問に対して、「ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)」と答えた生徒が、県平均・全国平均を大きく上回っています。1人1台端末などのICT機器を授業で積極的に活用できていると考えられます。
- ◆ 「読書は好きですか」という質問に対して肯定的な回答をした生徒は県平均・全国平均に比べて下回っています。また、「学校の授業時間以外に普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、読書しますか」という質問に対して、「全くしない」と回答した生徒は県平均・全国平均を大きく上回っています。このことから、読書に親しむ時間を増やすことで、本に興味を持つ生徒が増えていくと思われます。
- ◆ 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という問いに対して肯定的な回答をした生徒の割合は県平均・全国平均に比べてやや低い割合です。このことから、規則正しい生活を心掛けることが日々の充実した活動につながると思われます。